

議員のコロナ対策意識と都全体の対策への評価の関係

2024年2月19日

1. はじめに

2019年12月初旬、中国の武漢市で第1例目の感染者が報告されてから、新型コロナウイルスは瞬く間に世界的なパンデミックとなった。その影響で各国が対策に苦しみ、国民が自粛など生活の変化を余儀なくされたのは記憶に新しい。東京都も感染拡大防止や医療提供体制の確保のために様々な取り組みを行っていた¹。2024年現在、生活はほとんどの面でコロナ禍の前のように戻りつつあるが、議員はこれまでの東京都のコロナ対策の取り組みについてどのように評価しているのか、それは各議員自身のコロナ対策意識と関係しているのか。

本稿では議員のコロナ対策意識が都全体のコロナ対策への評価にどのように影響を与えるのかを検証する。都議会議員調査データを用い、独立変数を所属政党・議員が力を入れて取り組んでいる問題・マスク着用の有無・現在大切にしている公約・政策、従属変数を東京都のコロナ対策は適切であったかどうかとして分析を行う。

2. 背景・先行研究

東京都はコロナ禍、特に緊急事態宣言下において多くの対策を講じていた。不要不急の外出の自粛を徹底、病床確保・ワクチン接種の推進などの医療提供体制の強化、感染者家庭への食料品の支給、事業者への多面的な支援など都民の命を守り、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図るための取り組みがなされてきた²。

日本の新型コロナウイルス感染症対策に関して、南島（2022）は、コロナ対策を評価し振り返ることは将来もまたパンデミックやその他大きな感染症の問題が発生した時に誤った政策をしないためにも必要であると指摘している。また同時に、他国の政策と比較した上で日本の対策に著しい欠陥は見られなかったと提唱している。

全体としては著しい欠陥がないとされる日本の新型コロナウイルス感染症対策であるが、その中では政権と自治体の対立が起きていたともされる。竹中（2020）は自治体側が政策の内容を決定することも少なくなかったため、政権が経済への悪影響に、知事側が感染抑制策にそれぞれ関心を有していたと指摘している。

一方、コロナ禍における個々の市民の行動として、孫ら（2021）は生活様式の変化がマスク着用行動にどう影響を与えていたか調査した。その結果、男女大学生がマスクを着用する目的として、「1位はコロナに感染されると他人に移る伝播者になるのが怖いから、2位はコロナに感染されるようだから、3位は他人の社会的視線が気になるからであった」。

¹ 東京都新型コロナウイルス感染症対策本部. 2021. 「新型コロナウイルス感染症対策に係る東京都の取組 -未曾有の感染を乗り越えて-」 <
https://www.sp.metro.tokyo.lg.jp/seisakukikaku/corona_torikumi_04/html5.html#page=1
> (アクセス日: 2024年2月17日)

² 東京都新型コロナウイルス感染症対策本部、同上

3. 理論と仮説

南島（2022）によればコロナ対策を評価し振り返ることは将来の政策のために必要であるとし、他国の政策と比較して著しい欠陥が見られなかったことから、東京都のコロナ対策に関しても、ある程度の評価がされることが期待できる。

また、竹中（2020）は政権や知事はそれぞれ経済への悪影響と感染抑制策に関心を有していたと指摘しており、都議会議員のコロナ対策への意識が何らかの形で議員自身の政策に影響を与えていたと考えられる。

個々人の行動に関しては、孫ら（2021）によると、男女大学生は自分がもしウイルスを持っていた場合他人に移さないためにマスクを着用している人が多いことが調査によって示された。これは大学生に限った理由ではないと推測でき、その後の順位の理由も同様であると考えられる。このマスク着用行動はコロナへの意識と関わる可能性が高い。

ここまでの理論を、東京都のコロナ対策への議員による評価についてあてはめる。所属会派が国政の政権与党であると、党の政策や思いが東京都の政策に繋がる機会が多くなるため、高い評価を得られる可能性がある。また、議員が社会福祉や医療福祉関連の問題に関心をもち、政策として行っている場合、コロナへの意識の高さから都の対策にも厳しい評価をする可能性がある。加えて、マスクを普段から着用するといった個人的な対策意識が強く、自身に厳しいと、都の対策への評価も厳しくなると考えられる。

以上より、東京都のコロナ対策評価は議員が日頃から力を入れて取り組んでいたり、政策として大切にしていたりするか、もしくは自身がコロナ対策としてマスクを適切に着用しているかどうかによって評価が変わる、と仮説を立てる。

4つの独立変数の仮説について以下に示し、検証する。

仮説1：所属会派が国政の政権与党であると評価が高くなる

仮説2：議員が力を入れて取り組んでいる問題が「社会福祉」関連であると、都のコロナ対策に対する評価が厳しい

仮説3：マスクを日頃より着用している議員は都のコロナ対策に対する評価が厳しい

仮説4：現在大切にしている公約・政策が「新型コロナウイルス」であると都のコロナ対策に対する評価が厳しい

4. データ、変数、分析手法について

仮説を検証するために、「津田塾大学中條研究室 2023年度第6回東京都議会議員調査」の調査結果を用いて分析・考察を行った。都議会議員119名を対象に、調査期間は2023年10月27日から2023年11月30日までとして調査を行った。回答数は74(回収率62.3%)、そのうち分析に使用する質問に未回答なものは除外し、有効な72の回答をデータとして使用した。今回分析に使用する変数を表1に示す。また、以下より小

数点第三位を四捨五入した値は約で示す。

表 1：使用する変数

変数	調査票における質問	尺度
コロナ対策評価	新型コロナウイルスは感染症法の位置付けとして2023年5月に5類に移行しました。これまでの東京都のコロナ対策は適切であったと考えますか。	連続変数
所属党派		都民ファーストの会 東京都議団、都議会公明党、ミライ会議、東京都議会立憲民主党、東京都議会自由民主党、日本共産党東京都議会議員団、無所属
社会福祉重視	あなたが最も力を入れて取り組んでいる問題は何ですか。強いて言えば1つだけお選びください。	社会福祉=1、それ以外=0 (複数回答の場合は社会福祉が含まれていたら1)
マスク着用	マスクに着用についての判断が個人の自由となりましたが、あなた自身は着用していますか。	「はい」、「場合による」= 1、「いいえ」= 0
医療福祉重視	2023年現在、ご自身が最も大切にしている公約や政策を教えてください。強いて言えば1つ、お選びください。	「新型コロナウイルス対策」、「医療・福祉」= 1、それ以外= 0 (複数回答の場合は「医療・福祉」が含まれていたら1)

また、以下にコロナ対策評価(n=70)の基礎値(表 2)とヒストグラム(図 1)を示す。0 から 10 の尺度の平均は 5.51、中央値は 6 とやや「評価する」方に回答が偏っているが、最小値 0 と最大値 10 が示す通り、またヒストグラムにも表れている通り、厳しい評価から高い評価まで満遍なく分布している。

表 2：コロナ対策評価の記述統計

変数	平均	中央値	最小値	最大値	標準偏差
コロナ対策評価	5.51	6	0	10	2.83

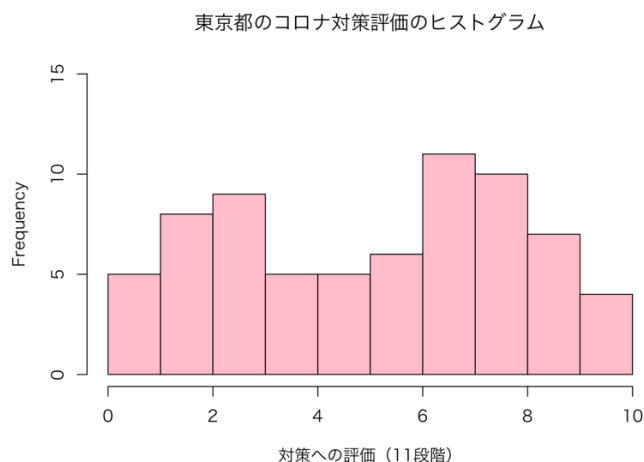


図 1-1：東京都のコロナ対策評価のヒストグラム

所属会派に関して、回答者における内訳は、都民ファーストの会 東京都議団 15 名、都議会公明党 8 名、ミライ会議 4 名、東京都議会立憲民主党 9 名、東京都議会自由民主党 12 名、本共産党東京都議会議員団 16 名、無所属³ 4 名であった。最も力を入れて取り組んでいる問題について、「社会福祉」を選択した人は 22 名で、その割合は 30.56%であった。マスク着用の有無について、「はい」、「場合による」を選択した人は 57 名で、その割合は 79.17%であった。最も大切にしている公約・政策について、「新型コロナウイルス対策」または「医療・福祉」を選択した人は 12 名で、その割合は 16.67%であった。

5. 結果

(1) 所属会派ごとのコロナ対策評価平均

仮説 1：所属会派が国政の政権与党であると評価が高くなる

会派ごとのコロナ対策評価の平均値を表 3-1 に示す。東京都のコロナ対策を 0 から 10 の 11 点尺度のどの程度で評価できるかといった質問であった。会派ごとの平均値は都民ファーストの会 東京都議団、都議会公明党、東京都議会自由民主党が他の会派より比較的高い平均値であった。都議会公明党と東京都議会自由民主党に関しては、仮説 1 の通り、国政与党であり、自党の意見が都のコロナ対策に取り入れられる機会を多く持ち合わせていたと考えられる。都民ファーストの会 東京都議団に関して、この政党は都知事の政党であるために、党の政策が基本的には東京都のコロナ対策と直結し、評価平均が高い値をとったと考えられる。

³ 所属会派に関して、回答者が 1 人であった政党は無所属と考えて分析を進める。

表 3-1：所属会派ごとのコロナ対策評価平均

所属会派	平均値
都民ファーストの会 東京都議団	7.93
都議会公明党	7.75
ミライ会議	5.00
東京都議会立憲民主党	4.44
東京都議会自由民主党	6.92
日本共産党東京都議会議員団	2.13
無所属	3.25

(2) 力を入れて取り組んでいる問題とコロナ対策への評価

仮説 2：議員が力を入れて取り組んでいる問題が「社会福祉」関連であると、都のコロナ対策に対する評価が厳しい

力を入れて取り組んでいる問題とコロナ対策への評価の平均値の表を表 4 に示す。力を入れて取り組んでいる問題として社会福祉を選択していた議員のコロナ対策評価の平均値は 4.82、それ以外の選択肢を選択していた議員のコロナ対策評価の平均値は 5.83 であった。平均値が社会福祉を選んでいる議員らの方がそれ以外を選んでいる議員らよりもやや低くなっているため、仮説 2 の通り、社会福祉に力を入れて取り組んでいる議員はコロナ対策評価がやや厳しくなる傾向があるといえる。

表 4：力を入れて取り組んでいる問題とコロナ対策への評価平均

力を入れている問題	平均値
社会福祉(1)	4.82
それ以外(0)	5.83

(3) マスクを着用しているかどうかとコロナ対策への評価

仮説 3：マスクを日頃より着用している議員は都のコロナ対策に対する評価が厳しい

現在もマスクを着用しているかどうかとコロナ対策への評価の平均値の表を表 5 に示す。マスクを着用している、場合によっては着用していると答えた議員のコロナ対策評価の平均値は 5.51、マスクを着用していないと答えた議員のコロナ対策評価の平均値は 5.54 であった。平均値が非常に近い値になったことから、マスク着用の有無とコロナ対策評価は関係がないと考えられる。

表5：マスクを着用しているかどうかとコロナ対策への評価平均

マスクの有無	平均値
はい、場合による(1)	5.51
いいえ(0)	5.54

(4) 現在大切にしている公約・政策とコロナ対策への評価

仮説4：現在大切にしている公約・政策が「新型コロナウイルス」であると都のコロナ対策に対する評価が厳しい

現在大切にしている公約・政策とコロナ対策への評価の平均値の表を表6に示す。新型コロナウイルス対策・医療福祉を大切にしている公約・政策と答えた議員のコロナ対策評価の平均値は5.08、それ以外を大切にしている公約・政策と答えた議員のコロナ対策評価の平均値は5.60であった。新型コロナウイルス対策・医療福祉を大切にしている公約・政策と答えた議員のコロナ対策評価の平均値の方が、それ以外と答えた議員のコロナ対策評価の平均値よりもやや低くなっていることから、仮説4の通り、コロナウイルス関係の公約・政策を大切にしている議員は都のコロナ対策への評価がやや厳しいといえる。

表6：現在大切にしている公約・政策とコロナ対策への評価平均

大切にしている公約・政策	平均値
新型コロナウイルス対策・医療福祉(1)	5.08
それ以外(0)	5.60

(5) 都のコロナ対策評価と各独立変数の重回帰分析

独立変数を所属政党・議員が力を入れて取り組んでいる問題・マスク着用の有無・現在大切にしている公約・政策、従属変数を都のコロナ対策評価として重回帰分析した結果を表7に示す。なお、この分析での会派ダミー変数はミライ会議を基準としている。有意水準を5%とすると、都民ファーストの会 東京都議団、都議会公明党、日本共産党東京都議会議員団が5%よりもp値が小さくなったため、統計的に有意であるといえる。前項までの結果から、マスク着用の有無に関してはコロナ対策評価との関係をもたないとしていたが、この重回帰分析からも関係がないことがわかる。力を入れている問題と大切にしている公約・政策はコロナ対策評価と

やや関係があるとしていたが、この回帰分析から、会派をコントロールすると関係がないといえる。また、所属会派について、コロナ対策評価と関係しているとしていたが、この重回帰分析からも、関係がある会派があることがわかる。基準としているミライ会議より、都民ファーストの会 東京都議団は2.97、都議会公明党は2.79評価が高い。p 値の有意水準を5%でなく、10%水準とすると、自民党も有意といえ、1.87と比較的評価が高い。一方で、日本共産党東京都議会議員団は-2.91と評価が低い。したがって、コロナ対策評価を決めるのは所属会派である可能性が高いと考えられる。具体的には知事政党である都民ファーストの会 東京都議団、国政与党である都議会公明党、東京都議会 自由民主党は評価が高く、日本共産党東京都議会議員団は評価が低い。

表7：都のコロナ対策評価と各独立変数の重回帰分析

	回帰係数	標準誤差	t値	p値	
切片	4.76	1.07	4.45	9.00E-05	***
都民ファーストの会 東京都議団	2.94	1.05	2.80	0.007	**
都議会公明党	2.79	1.15	2.42	0.019	*
東京都議会立憲民主党	-0.46	1.13	-0.41	0.681	
東京都議会自由民主党	1.87	1.08	1.74	0.088	
日本共産党東京都議会議員団	-2.91	1.06	-2.74	0.008	**
無所属	-1.54	1.36	-1.13	0.263	
力を入れている問題	-0.17	0.52	-0.33	0.742	
マスク着用の有無	0.31	0.65	0.47	0.638	
大切にしている公約・政策	0.23	0.65	0.35	0.729	

*p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

n=70

決定係数：0.5877

6. 結論と含意

本研究の結果より、議員のコロナ対策意識と東京都のコロナウイルス対策への評価の関係について、議員の所属している政党が都のコロナ対策への評価に影響を与えることがいえる。そのため、仮説1の「所属会派が国政の政権与党であると評価が高くなる」は支持できるといえる。加えて、知事政党であることも高い評価に影響を及ぼしているといえる。また、力を入れて取り組んでいる問題、マスクを着用しているかどうか、現在大切にしている公約・政策がコロナウイルス関連であるかは他の変数をコントロールすると都のコロナウイルス対策評価と相関をもたなかったため、仮説2、仮説3、

仮説 4 は支持されない。力を入れて取り組んでいる問題や大切にしている公約・政策がコロナ関連であるかどうかはコロナ対策評価と関係なかったのは、あくまでも議員自身が重視していることであって、都の対策の評価とは離して考えている議員が多かったと推測できる。また、マスクの着用に関しては、議員自身の個人的な意識の問題であって、こちらも都の対策の評価とは離して考えている議員が多かったと推測できる。どの政党に属しているかによって東京都のコロナ対策への評価が厳しくなったり、良く評価したりするといえる。

参考文献

孫 珠熙・李珠英・西丸広史・堀悦郎・西条寿夫. 2022. 「男女大学生の COVID-19 に対する認識及びマスク着用行動」『日本家政学会誌』 Vol.73 No.6 p344-357

竹中治堅. 2020. 『コロナ危機の政治』. 中央公論新社（中公新書）

東京都新型コロナウイルス感染症対策本部. 2021. 「新型コロナウイルス感染症対策に係る東京都の取組 - 未曾有の感染を乗り越えて - 」 <
https://www.sp.metro.tokyo.lg.jp/seisakukikaku/corona_torikumi_04/html5.html#page=1>（アクセス日：2024年2月5日）

南島和久. 2022. 「コロナ禍の政府政策とそのレビュー-危機管理と副作用に注目して-」『日本評価研究』 22 巻 1 号 p. 3-14